

かながわの 民俗芸能

第 63 号



鎌倉神楽 大散供

(平成10年11月8日 鎌倉鶴岡八幡宮末社 丸山稻荷社 火焚祭)

神奈川県民俗芸能保存協会

目次

神奈川県民俗芸能保存協会創立30周年を迎えるにあたって	石井 一躬	3
秦野市との共催事業		
第1回かながわ民俗芸能のつどい	事務局	4
第23回秦野市民俗芸能大会に	事務局	4
神奈川県民俗芸能保存協会創立30周年事業(予定)について	事務局	4
かながわの民俗芸能散歩(3)		
藤沢市① 白旗神社の湯立神楽	木下 明	5
会員日より		
神奈川県立二宮高等学校相模人形部	菊地 晃三	6
全国高等学校総合文化祭に出場して	樋田 豊宏	8
第19回相模原市民俗芸能大会―盆踊りの系譜―を見学して	永田 泰祐	8
三崎・海南神社の面神楽	徳山 泰子	10
夏祭り見聞録		
一般寄稿		
故郷の祭り囃子	木村 峰明	13
新会員紹介		
鎌倉神楽保存会	吉田 茂穂	15
小田原民俗芸能保存協会	川久保和男	16
相模原市民俗芸能保存協会	中里 泰史	17
ニュース・伝言板		
・協会事業報告		18
・会員活動紹介		18
・お知らせ		19
		22

神奈川県民俗芸能保存協会

創立30周年を迎えるにあたって

神奈川県民俗芸能保存協会副会長 石井 一 躬

この夏、本当に何年ぶりかで相模ささら踊り大会へ足を運びました。

今回の会場となった南足柄市の立派な体育館の観覧席から、次々と演じられる八つの各保存会の踊りを拝見しているうちに、昭和も四十年代の終わりのことでしたでしょうか、本協会の前会長永田衡吉先生が、まだお元気でいらしゃった頃のことですが、石井さんささらを使った盆踊りが次々と出（所在が確認され）てくるんだよと、珍しく興奮した面持ちでおっしゃっていたご様子が、つい昨日のことの如く思い出されてきたのでした。そして先生は、これは是非とも神奈川県の民俗芸能の目玉として大きく育ててゆく必要のあることをおっしゃって、そのためにはこれらを全て大同団結させるのに相応しい愛称とフェスティバルのような競演の場の必要性を熱心に説かれたのでした。

それから間もなくして、相模さ

ら踊り連合会が結成され、今回のような形式での連合公演が、恒例のものとして毎年催されるようになったのでした。今回の大会。パンフレットの表紙には、第22回とありました。

この大会が催行されるに至った経緯を多少なりとも知る者にとっては、22年というこの間の歳月の流れを振り返ると、些か感慨深いものがありました。

その頃は折しも、神奈川のふるさと創生運動の機運が最高潮に盛り上がりつつあった頃で、県民ホールを満員にして催された県民俗芸能大会や同小ホールでの相模人形芝居大会の盛況が、今更のように思い出されてきます。また、本協会自体の見学会も、かつては県内に止まらず、関東ブロック大会の開催地はもとより遠く奥三河にまで及んでいました。それにしても、決して強力であったとはいえないまでも、それなりに活

性力の昂揚に効果のあった、行政の

後押しを受けての当時の活気を思い起こすにつけて、今日のあり様を見ると、一抹の寂しさを感じられて仕方がありません。

そんな思いにふけりながら、夏の全国高等学校野球選手権大会開会式のテレビ中継を見ておりましたら、横浜高校主将小山良男君が、出場選手を代表して、『大会八十年の歴史の中で、先輩の高校球児が数々のドラマを演じてきたこの甲子園で、21世紀に向けて多くの人々に生きる勇氣と希望を与えることができるように全力でプレーすることを誓います。』

と、声高らかに選手宣誓をしていました。そして、横浜高校の選手達の活躍は、正しくこの宣誓そのものであり、我々に数多くの感動を与えてくれました。即ち、若者の保持する無限の可能性を実証してくれたのです。否、よしんば横浜高校の優勝が叶わなかったとしても、小山君の宣誓のことはそのものに、我々の感動を呼び起こす実に大きな力が込められていたと思います。

兎角近頃の高校生を含めた若者達の振る舞いに対しては、芳しい評価が少ないのは確かです。そうした中

で、こんなにすっかりした高校生が存在するという、このこと自体が素晴らしいことに思えてなりません。しかし、こうしてマスコミを通して顕在化する運動部関係の高校生とは別に、種々の分野で実に地道な活動を続けている生徒達もいることもまた事実です。

民俗芸能だけでいえば、県立茅ヶ崎高校の文楽同好会は、この秋に創立40周年記念公演を行いました。また、厚木東・高浜・二宮等の県立高校における人形浄瑠璃での部活動には、刮目すべきものがあります。県立愛川高校では、今年度から地元の新増獅子舞の伝習を主とした伝統文化という授業を開講し、近々保存会を交えての発表会を予定しています。

こうした高校生達の堅実な取り組み・活動を見るにつけて、本協会が30周年を迎えるに当たって思うことは、随分と独りよがりなことかも知れませんが、協会がこうした若い力を活かすための求心的位置を担う存在になれたらということですか。というのも、何れ我々は彼らに全てを委ねざるを得ないのでから。

平成10年度の事業のうち、秦野市教育委員会との共催で、民俗芸能大会を開催することになりました。

秦野市教育委員会は、毎年市内の民俗芸能団体が一堂に会する「秦野市民俗芸能大会」を開催しています。が、今年度神奈川県民俗芸能保存協会と共催して、「第1回かながわ民俗芸能のつどい」も併せて開催することになったものです。

平成5年を

最後に県民俗芸能大会が中断されて以降、神奈川全域を対象とした民俗芸能大会が開催されてい

まらなかった。こうして

方針を受けて事務局で市町村の民俗芸能大会への共催の可能性を打診したところ、幸いにも秦野市教育委員会の御厚意をいただき、「第1回かながわ民俗芸能のつどい」として共催させていただくこととなりました。

参加団体は秦野市内から秦野さくら踊り保存会、市内有志の仕事唄、瓜生野盆踊り保存会。協会からは、

秦野市との共催事業

第1回かながわ民俗芸能のつどい
第23回秦野市民俗芸能大会
について

神奈川県民俗芸能保存協会事務局

乙女文楽の湘南座(平塚市)、五所宮離子宮本地区保存会(中井町)、湯立獅子舞の宮城野獅子舞保存会(箱根町)、

復活の声が大きいことから、協会独自で民俗芸能大会を実施することが

新城郷土芸能離子曲持保存会(川崎市)です。

できないか事務局で検討してきました。そして常任理事会にも諮り、市町村で開催されている民俗芸能大会

協会の自主事業として出発した「かながわ民俗芸能のつどい」を今後継続・発展させていくためには何

に共催という形で参加し、地元の参加団体に混じって当協会の団体会員

より必要です。出演参加だけでなく観覧参加まで、ぜひとも第2回、第3回……と続くようみなさんの御協力をお願いいたします。

平成11年度、神奈川県民俗芸能保存協会は創立30周年を迎えます。事務局としてはこれを記念した事業を検討していますが、ここでいくつかの事業について御紹介いたします。

『かながわの民俗芸能』

神奈川県民俗芸能大会の復活

平成10年度に秦野市教育委員会と共催で「かながわ民俗芸能のつどい」を開催しましたが、今回は30周年記念ということ

で、独自に民俗芸能大会を開催できない

かを常任理事会で検討を進めています。

神奈川県民俗芸能保存協会

創立30周年事業(予定)について

神奈川県民俗芸能保存協会事務局

能大会を再開させるためには、協会の財政問題等いくつかの課題もありますが、常任理事会とも相談しながら実現に向けて努力してまいりたいと考えております。

この大会は、協会の主催事業として実施しますが、近年にない大きな事業のため、大会開催にあたっては会員みなさんの御協力がぜひとも必要になりますのでよろしくお願

いいたします。

『かながわの民俗芸能』も今回で63号を数えますが、創立30周年を記念して、「記念号」の発刊を検討して

います。当協会の30年の歴史を振り返り、協会の役員、関係者、会員からの思い出やこれからの展望などを寄稿していただくことを検討中です。

お願い

30年目を迎えた神奈川県民俗芸能保存

協会の今後の展望と事業展開について、事務局としては、常任理事会、理事会などで検討し、総会に諮りながら県内の民俗芸能の継承と発展に

かながわの民俗芸能散歩(3) 藤沢市①

白旗神社の湯立神楽

藤沢市教育委員会生涯学習課文化財担当 木下 明

○mの所に白旗神社があります。

ここは寒川比古命と共に源義経を祀り、付近には義経首洗井戸、義経首塚、弁慶塚などが点在します。この神社に江戸時代から伝わる格調高いお神楽があり、毎年十月二八日の秋祭りに奉納されています。湯立てを伴う神楽は場所により湯立て・湯花・湯立ちと様々な呼び名があるようですが、白旗神社では「ゆたて」と呼んでいます。大金に湯を沸かし笹を浸して演者は勿論、周囲の人々にも降り注ぎ、これによって場所と人々を清める形をとっています。これは私達の日常生活に密着している神々に対する和(なご)みの神事で、神と共に楽しみつっ庶民の信仰として受け継がれてきたものと思われま

す。元々は鎌倉の鶴岡八幡宮に所属した神楽師が伝承していたものが近隣に広まり定着したものとみられ、鎌倉神楽とも呼ばれています。分布は鎌

倉市内を中心に横浜市・横須賀市・三浦市などにあるようです。通常の民俗芸能は農民など一般人が演じたり神代神楽のように専門の神楽師によって行われてきましたが、鎌倉神

楽は神職のみによって行われており、品格のある神楽となっています。戦時中、西俣野の嶽山太満喜御嶽神社宮司によって守られていたこの神楽は、戦後嶽山宮司を中心に横浜市保土ヶ谷区たばなの橋樹神社嶽山政一宮司、西区おかの岡野神社磯崎直有宮司、神奈川区おおの台町の大綱金刀比羅神社吉田正臣宮司の力により復活されました。現



次第九 笹の舞い

白旗神社近藤正宮司はこの神楽を継承すべく嶽山宮司に師事し、神社奉仕の傍ら神楽講習会、研修会を開き後継者の育成に努めてこられました。その結果、市内7社の神事の外、鎌倉市内での諸社の大祭にも出張奉仕するまでになったということです。

本年十月二八日の湯立神楽の様子を紹介いたします。用意されていたものは大太鼓、締太鼓、笛、鈴、扇、弓矢、御幣、竹の棒、剣、天狗と山ノ神の面等です。湯立神楽次第によれば、

- 一、打囃子(うちはやし) 楽器の音合
- 二、初能(はのう) 鈴と扇を持ち舞いながら米を撒き、座を清める。
- 三、御祓(おはらい) お祓いの後、湯釜と焚き口のくわ小幣にお神酒を注ぐ。
- 四、御幣招(ごへいまねき) 神事の対象となる神々を招神する舞。後、御幣で参列者のお祓いをする。
- 五、湯上(ゆあげ) 笹を湯に浸し、桶に汲んだ湯と共に神前に捧げる。
- 六、中入(なかいり) 小休止、お神酒と御供(赤飯)を参列者に配る。
- 七、搔湯(かきゆ) 神楽の中心となる。御幣の柄で湯釜を掻き回す。
- 八、大散供(だいさんく) 天津神あまつかみ・地津神くにつかみ・八百萬の神々に散供する二人の舞。
- 九、笹の舞い(ささのまい) 湯釜に笹を浸し、参列者に振りかける。湯花を浴びると無病息災と言っ。
- 十、弓祓(ゆかり) 悪霊を祓い招福を祈り四隅に御神矢を射る。矢を授かるあづかると開運守護矢となる。
- 十一、剣舞・毛止機(けんまい・もどき) 剣を持った天狗がお祓いの後、神前に供えた餅を撒く。同時に杓文字を持った山ノ神も天狗の



次第十一 剣舞、毛止機

緊張を戻そうと道化を演じる。

以上、午後2時に始まった神事は4時に終了し（神楽は2時40分から）、宮司挨拶の後、参列者に餅が配られ散会しました。

現在藤沢市では白旗神社の他、鶴沼皇太神宮、西俣野御嶽神社、西富

諏訪神社、柄沢神社、渡内日枝神社、

宮前御霊神社でも同様の神楽が行なわれていきます。古い神楽の形式と手順をよく保存している貴重な文化財であることから「湯立神楽」として平成8年3月、藤沢市の無形民俗文化財に指定しています。

会員だより

神奈川県立二宮高等学校相模人形部 全国高等学校総合文化祭に出場して

県立二宮高等学校教諭 菊地 晃 三

おかげさまで、全国大会も無事終了しました。わたしたちを支えてくださった方々ほんとうに感謝しております。ありがとうございます。

をしています。バレーボール、柔道など多岐にわたる各専門部が、それぞれ独立した活動をしながら高体連に属しています。

高文連総合文化祭は、全国高等学校文化連盟（高文連）が年に一度行う全国規模の文化祭です。体育クラブに全国高校体育連盟（高体連）がありますように、高文連があるわけです。その地方組織として神奈川県高等学校文化連盟もあります。

同じように高文連も演劇、合唱、吹奏楽、美術・工芸、写真、放送、小倉百人一首かるた、など二十二専門部があります。わたしたちが所属しているのは郷土芸能専門部です。（しかしわたしたちは、歴史的経過もあり、神奈川県なかでは「伝統芸能専門部」の呼称を使用しています。）

バスケットボールクラブは高体連のバスケットボール専門部に所属し

高校総合体育大会（高校総体）が

高体連の全国大会であるように、高校総合文化祭（総文祭）が高文連の全国大会なのです。そしてこの全国総文祭が大部分の文化クラブ専門部にとって、いちばん大きな全国大会となります。

わたしたちは、平成九年度の神奈川県総合文化祭伝統芸能発表会において、神奈川県高等学校文化連盟より神奈川県知事賞をいただき、全国大会出場が決定しました。

苦難はその瞬間から始まりました。「相模人形部は暗い」という偏見のなかでの、部員集めが開始されたのです。

知事賞受賞時の三年生は実に得難い人材の集団でした。四人がそろって個性的で生き生きとしていました。

旧来の確立したふりを自分たちで納得できるように話し合い、工夫しながら変えてしまおう。そういう生徒たちでした。彼女たちは楽しそうでした。「第一回青少年ボランティアコンクール プルデンシャル・スピリット・オブ・コミュニティ」において、

全国で八校しか受賞できない全国賞に輝いたのも、彼女たちの力でした。

その時の部長の杉山さんの卒業時



第1回全国青少年ボランティアコンクール
関東ブロック表彰式

の文章の抜粋を紹介させていただきます。『胃を悪くするほどつらい時期、学校を辞めたいと親に相談したこともしばしばあった。やっと見つけた居場所は相模人形部だった。楽しくて大好きで毎週練習日が楽しみで学校への足が軽かった。苦勞でなく笑いが合いながら積んできたことは全国大会出場決定で証明された。そしてその重荷は背負うことなく後輩に渡され、卒業してしまおうらしい。まあ楽しかったからいいか。』伝統芸能にはこういう力もあるんです。

ともあれ、こういう三年生がごそつと卒業してしまつたのです。生徒しか全国大会の舞台には上がれないという前提であれば、わたしたちは最低で七人の部員を確保しなければな

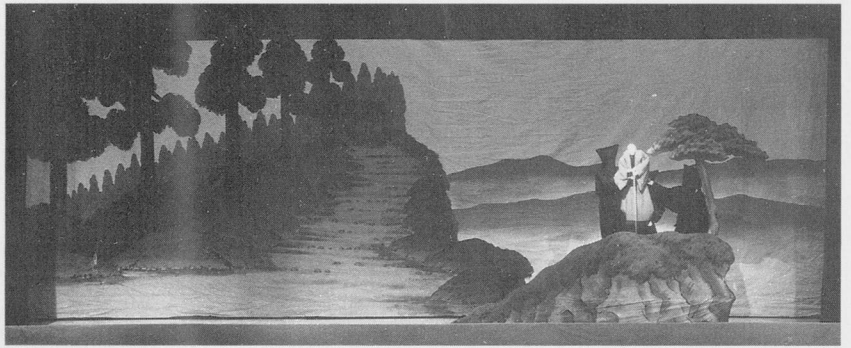


相模人形部部員と先生方

りませんでした。当時残された部員は一年生二人しかいませんでした。それが三人遣いの苦しさなのです。後見が二人というのもぎりぎりの人数です。

勧誘につぐ勧誘でようやく二ヶ月かかって、七人の確保に成功しました。何が大変だったかといって、これほど大変なことはありませんでした。

これ乗り越えた後、指導者の林美彌子さんに課せられた課題は、この部員たちの演技レベルを全国大会



「壺坂靈験記」山之段の舞台面

の水準にまであげることでした。わたしは裏方に課せられた課題は、舞台道具を新調することでした。わたし自身は前年の奈良大会を見ていますので、二宮高校の手持ちの舞台道具では全国大会の舞台には立てないと思っていました。

部員たちの演技は感動的ですからあ

りました。林さんは、見事に、この経験の浅い部員を全国レベルまで引き上げていただきました。舞台道具は、二宮高校PTA・OB会と二宮町のおかげで、立派なものができあがっていました。

兵庫県立三原高校の登録部員は二十九名。使用した人形は延べ六体、一人遣いの人形は八体。義太夫は二人の、三味線も二人の女生徒。人形は地元の木偶(でく)工房の方が作ったもの。だしものは「三十三間堂棟由来」。

この三原高校と二宮高校だけが三人遣いの人形浄瑠璃からの出場でした。

正直なところ、わたしたちは人形による人間表現、感情表現では負けてはいなかったつもりです。しかし総合力では何ともしようがない事態です。三原高校は優秀賞を受賞しました。

審査委員長長の三隅先生は、講評のなかでこうおっしゃいました。「人形浄瑠璃は、人形操作、義太夫、三味線で一セットなのです。義太夫、三味線が養成できないばかりに、消えていった人形浄瑠璃が各地にある

のです。」と。わたしたちは、これはわたしたちへの温かい忠告だと思いました。

わたしたちは思い課題を背負って帰ってきました。しかしこれは神奈川県の人形浄瑠璃に関わる方に、文楽愛好者も含めて、考えていた大きな問題です。もし本格的に義太夫、三味線の養成を考えるのならば、も



「壺坂靈験記」谷底の場面

はや一高校の手におえる問題ではありませぬ。神奈川の人形浄瑠璃を統合する組織が作られ、そこに常置された養成講座があり、高校からそこへ生徒を派遣できるようなシステムが欲しいのです。常置、継続する養成講座の設置をぜひ考えていただきたいと思ひます。

会員だより

第19回相模原市民俗芸能大会

―盆踊りの系譜―を見学して

神奈川県民俗芸能保存協会監事 樋田 豊 宏

平成十年月十一日に相模原市の大会を見学した感じを記したい。

小林梅次氏が解説を行い、テレビ番組の一部を録画されたのに始まり、古淵大日堂の和讃が行われた。南北朝の犠牲者の供養の為の古いもので、口伝は時に語呂にも意味不明のものもあった。

続いて時宗大本山無量光寺の双盤念仏である。双盤・太鼓・半鐘などの間に繰り返し返される念仏は、静かに時に声高らかに唄われた。

そして同寺の踊り盆仏は、藤沢の遊行寺に伝わるものが十年前からここに移された。胸に付けた小さな鉦に合わせて踊る。

中程には綾瀬から呼ばれたもので、

一般的な、江戸・明治・大正と受け継がれたササラ盆踊りで、県内各地にあるものだ。

次に上大島と新田名音頭の二つであるが、共に昭和初年の不景気に考案されたものが、今に受け継がれている。新田名音頭は、神奈川の歌50選にも入っている。

そして最後は、東林間で行なわれている阿波踊りで、舞台狭しと、今まで踊った人達が一齐に踊られている。

以上盆踊りの系譜であるが、小林さんの含蓄のお陰で相模原にある踊りを古い順に指定されていないものも含め、一堂に会して踊ったところが有意義であった。

会員だより

三崎・海南神社の面神楽

三浦高等学校教諭 永田 泰 祐

三浦三崎は、関東平野の伊豆・房総半島のほぼ中央に位置した気候温暖で風景絶景の地である。晩秋から初春にかけての霊峰富士の夕景は、何にも優ると思つている。それは何故なのだろう。実は、三崎港から丘側に三分程歩みを進めて行くと港の方角に向いて建つ旧郷社・海南神社が鎮座しているからであろう。石造



海南神社境内、正面が拝殿、左は面神楽奉納の神楽殿

りの鳥居を潜り暖かい日中は亀の出没する小池を右手に正面には拝殿、左手側には神楽殿を拜することができ。私は十数年前からのこの関東鎮護の社に興味をもって毎年通い続けて来た訳だが、この地には古くから伝承されてきた面神楽が上演されることを知らされた時からであった。今年も佳日が訪れた。霜月(十一月)初めの「ひつじ」「さる」の両日奉納されるのである。

「村の鎮守の神様の 今日ほめでたい御祭日

どんだんひやらら どんひやらら
 どんだんひやらら どんひやらら
 朝から聞こえる笛太鼓

「今年も豊年満作で 村は総出の大祭
 どんだんひやらら どんひやらら
 どんだんひやらら どんひやらら
 夜まで賑う宮の森

郷愁感の溢れる歌詞のこの歌は「村祭」。明治四十五年三月「尋常小学唱歌三」に載った作品である。詩文

の一部は異なるのだが、何故か三崎で詠まれたと思えるのである。今でも祭りの日の神社は、そんな雰囲気醸し出しているのである。

三崎、面神楽は正真正銘の神代神楽であるのだろう。永田衡吉氏「神奈川県民俗芸能誌」によると『里神楽の演目的一种。主として日本神話を主題とする仮面黙劇。本県(神奈川)では、もっぱら神代神楽。略してジンダイという。他県では種々。岩戸神楽・伯耆神楽・太々神楽・十二座神楽・甘五座神楽など国名・地名を冠した名称も多く、近来、出雲流神楽という汎称もある。

その様式と技巧も各地に依って必ずしも一致せず、更に曲名に至っては一層、異同が甚しい。従って、その研究は机上の整理だけでは覚束ない。例えば、隣接する東京では神代神楽と太々神楽が併存し、その様式内容も違う。本県では太々神楽と称する名称はなく、ただ、職掌系湯花神楽の古い文献の中に見出されるだけであるが、実際には、七座の神楽がその流系である。」と記されている。それでは「職掌系」とはどのような内容のものだろうか？ 鎌倉系と

いうことであり『旧鎌倉八幡宮職掌たちの奏する神楽を「職掌系湯花神楽」と仮称する。職掌の神楽は、鎌倉時代から中世へかけて単に「神楽」

「御神楽」と記録されている。が、宮廷神楽と紛交を避けるため、特に「職掌神楽」と呼んで記される。』

とある。海南神社の神庭で宮司さんにより奉納される湯立の神事について「湯立と神楽」の項に次のように記されている。『神庭の斎場に忌竹をめぐらし、その中央、三本の支柱に大釜を据え、火を焚いて熱湯をたぎらせ、巫祝が呪言して、両手に笹葉を持って湯に浸して引きあげ、神前と参詣衆の頭上に放撒する。これを湯立という。祓除の一種。湯立神事は、全国に普遍する。その濫觴を古代の、盟神探湯(広辞苑によると、

神明裁判の一。古代裁判上、真偽正邪を裁くのに誓って手で熱湯を探らせたこと。正しいものは、ただれず、邪な者は、ただれるとする。誓湯とある。)に、おくのがほぼユタチ・ユダテとも訓み、湯花・神湯・お湯神事などと地方異称も多い。』などと記されている。海南神社で奉



湯立が奉納される神庭の釜

納されるのも湯立の神楽である。旧郷社の始まりは、現在は海南神社の祭神となっておられる、御夫妻のお話から始まる。貞観六(八六四)年は、清和天皇、摂政関白藤原民房の平安時代。それから数年後、最澄が伝教大師、円仁が慈覚大師、いわゆる大師号の初めである。この頃、我が国に平仮名が現われた。平成からは、一三四年余も以前のことである。

霜月初めの末の日に藤原資盈と盈渡姫が三浦三崎の花暮の御座の磯(後世に呼ばれるようになった。)に漂着したと伝えられている。

霜月のこの日は大変に寒さの厳しい一日であったと伝承されていて、霰が降るような荒れ模様だった。一行が岸に着いた時に三崎の村人がそれはそれは温かい菜を刻んで入れた

粥、すなわち「菜粥」を供して飢えから救ったということから俗に「菜粥の神事」といって、海南神社米田光郷宮司によって厳かに「湯立の神事・湯立の神楽」(前述説明どおり)が神庭で執り行われ奏されてきた。昨年は八日(日曜)の「末」に奉納された。天候も例年になく暖かく午後六時半からの拝殿での神事も善男善女多数(堂内満員)が集まった中で奉行された。年輩の氏子・約二十名によって餅をサイコロ状に細かく切った所謂「あられ餅」が撒き振る舞われる。これは祭神一行が着岸された日が霰が降り続いていたとい



三宝から撒き振る舞われる「あられ餅」

う縁による行事である。この所謂「出居戸祭」（中祭）が奉納される未の日には、この一年間に黒不浄（死のけがれ）があった不幸な家の者は自宅の庭を出て親戚や知人の家庭で忌み籠りをしていたことが郷土の『三崎志』や『三浦古尋録』に記されていると言われているが、残念ながら見たことはない。

『三浦古尋録』によれば「此神ノ

氏子ノ習トテ出居外ト云事有是ハ我家ニ忌服有トイエトモ神事ノ日一日我家ヲ出テ外ニ在ル是ヲ出居外ト云是ヲ古来ヨリノ仕来ト云」とあって

この日、忌のある者は神樂が終了するまで、家の外に出ていなければならぬという風習があった。「菜粥の神事」と同様、海南神社祭神夫妻が着岸した時の故事にのっとった行事である。すなわち、祭神が花暮着岸をなされた霜月の未の日に、資盈、盈渡姫など一行を宿泊させようとした家が、たまたま不幸があつて忌中であつたため、仏さまを他家に移動して遺族も家の外に出て藤原資盈一行をお迎えして泊めたという言い伝えがあつたのである。それから氏は氏子達の家で不幸があつた時は

「忌崎」と呼ばれる海岸に出て物忌みといつて特別の期間、飲食や行爲を慎み身体を浄め、不浄を避けることが習慣になつたことから「出居戸」の名で呼ばれたとも言われてきた。神職が行う「湯立の神事」が奉納された翌日、申と酉の二日間が面神樂が神樂殿（舞殿）で行われるが珍しいことに氏子達の老若の男子によつて奉納される。

この面神樂に興味をもつたのは、職能神樂師ではなく、神社の氏子達だけで演じる神代神樂だからである。大神樂獅子舞が大神樂師の手を放れて村里の若者達の余暇を利用して行う娯樂を兼ねた祭祀芸能となつた過程と同じである。昭和六十二年の改定版「神奈川県民俗芸能誌」には、

「横須賀・津久井のある家には青年達が明治末期に求めた神樂面十個が保管されていたが、昭和四十年に再訪した時には散失。津久井の与瀬神社に關して『出演の神樂師は相模神樂の大草家（津久井根古屋）・番田神樂の龜山家（相模原上溝）と八王子のいなば神樂の小泉家。神代神樂を主とする。最近八王子神樂が連続出演している。（中略）与瀬

神社には驚くほど多くの面・装束・道具類を所蔵する。特に面は五十数個。装束と共に神社宮司が保管している。』と記述されているので柏木宮司に電話でお聞きしたところ「例年卯月十三日の例祭に宝曆十年の御輿が渡御。午後一時から日没まで神樂奉納。しかし、相模神樂の大草家、八王子の小泉家は神樂師今亡。現在は氏子でなくても神樂の好きな仲間が集まつて行っています。」と残念そうに話してくれました。現在、生粋に氏子達によつて所演されているのは三崎の面神樂のみということになる。見物人がいなくても舞は演じ

会員だより

夏祭り見聞録

神奈川県民俗芸能保存協会会員 徳山 泰子

る。祭事着岸の霜月の未・申・酉の日に奉納。なお「海南神社誌」には『出居戸の神樂は二十五座の神樂といふ』と記されるが「十二座」「二十五座」というのは神樂師仲間で使用されるが小規模神樂を十二座、大きな規模の神樂を二十五座という。所演される舞の曲目の数ではなく出場する神樂師の人数によつて定める。これは神樂面五十六個、楽器は、笛・鉦・締太鼓・大拍子・衣装・小道具の数の多さからも分かる。これら全てが貴重であるので時代の変遷はあつても絶やすことなくこれからも永久に所演してほしい。

平成十年二月十四日、山北町向原 披露され、こちらも堪能しました。

の能安寺に今は伝わる、世附の百万遍念仏を拝見しました。念仏に続いて、神自ら魔（獅子）の姿となり、積極的にそしてやさしく悪に立ち向かう獅子舞、ユニークなおかめの演技、その若さ凛々しさで今も人気の高い鳥刺し等、貴重な芸能の数々が

この祭祀の最大の特徴である大数珠をたぐりながらの念仏祈願は、先祖供養と同時に神降ろしの意味役割もあるのだそうです。先祖への想ひにひかれて、大人も子供も皆が力を合わせ心をこめ、数珠を回してひとつになつた、そんなあたたか

な座であるからこそ、神も降りれば「魔」すらも慰められ昇華する——。来る春毎に、この念仏と共に祖から子へ伝えられ、これからも伝えていかなければならない大切な事を、この日能安寺に集まった山北の子供達と共に、私も教わることが出来たのです。

参加しなければ見えてこない——。神奈川の祭りを是非その土地の人々と共有したくて、先祖供養の最も盛大に行われる夏、お盆の時期を中心に、あちこち足を運んでみました。

七月十九日 小田原市根府川

寺山神社の鹿島踊り

この寺山神社に伝わる鹿島踊りは、ここ根府川が産する「根府川石」を運ぶ石船を操る人々が信奉した海運の守護神、鹿島信仰と共にもたらされたものです（神社由来書）。腕自慢の海の男達の象徴であり誇りであった往時の立派な御輿は、地元の若者が皆サラリーマンになった今は重くて誰も担げないということ、ここ五、六年来ひとり寂しく本殿の奥。彼らが担ぐのは、新しく誂えたより軽いものだそうです。昔をよく知る



寺山神社の鹿島踊り

人曰く、「昔はあの重いやつを担いで海へも入った。今は祭り自体おとなしい。」祭りや芸能の命運には、信仰心ばかりでなく、腕力（職業）も大いに関係するのだということ、改めて知りました。

「資金さえあれば東京あたりから本職の人を呼んで担いでもらいたい。」とも仰しゃっていましたが、夏の祭りは先祖の御霊祀り、あの世の祖にせよ他郷に暮らす身内にせよ、肉親との再会を楽しみに帰ってくる人々を迎えるのはやはりその子や孫、その土地根生いの人々であってほしいと、そこでは余所者の私でさえ思っ

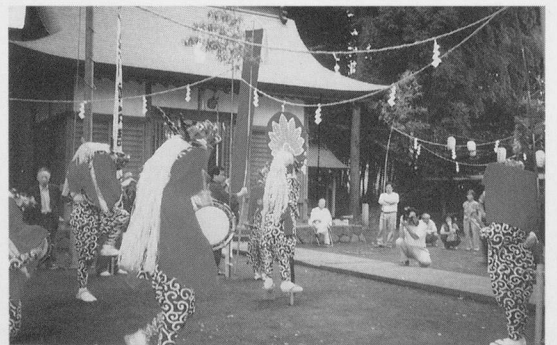
てしまうほど親身で親密な人間関係に、この夏ここ根府川をはじめとして行く先々で出会ったのです。共同体に支えられ、またその絆を一層強めてくれるのが祭りです。そのカタチとココロ、ふたつながら保つことの難しさ……。

七月二十日 愛川町三増の獅子舞

「今日は君達にかかっているんだよ。」世話役の大人の言葉通り、ポイスカウト等地元の少年の力で大黒天も復活し、終始子供達を中心に一日でした。

肝心の獅子舞もまた歌師の方々の歌も素晴らしく、この日は、愛川の教育と文化の理想を一身に担い彼らを指導してこられた愛川高等学校の相原芳夫先生の報われた日であり、郷土の芸能の継承を学校教育の場に求めた成果が示された瞬間であったのです。民俗芸能の中には、神仏の教え、人の知恵、自然の理、そしてそれらへの感謝等、本当の「教育」がいつばいつまっておき、それを受け入れる側の学校自身にとっても幸せなことだと思います。

相模人形芝居下中座指導員林美禰



三増の獅子舞

子氏曰く、「本来子供の気まぐれそのままの雑然・混沌を本領とする民俗芸能と子供との付き合いは、叱らず、焦らず、惜しまず与えること。一度どこかで触れさせておけば、いつかきつと戻ってきてくれる。一度触れたら、必ず戻ってくる。」（三月十五日第四回見学会の相模人形芝居教室にて）

この粹な教育論、芸能（芸術）論は、ここ三増の獅子舞でも実践され、実証されてゆくでしょう。

七月二十五日

小田原ちょうちん夏まつり

小田原囃子前川保存会、同じく多古保存会……。かわるがわる登場するお囃子を、何時間もかけて堪能しました。

人の手に成る、実用品であり祭具でもあるちようちんをテーマに、駅前前の繁華な街頭で行われたこの日の祭りは、とても人臭いものでした。

互いに支え合い、互いを発達させてきた道具と芸能の歴史を見た思いです。それはとりも直さず、神奈川が全国に誇る木と匠の文化圏小田原の歴史そのものなのでしょう。

七月二十七日

真鶴町貴船神社の船祭り

鹿島踊りの少年が、観衆の中からさし出された幼子を、手にした黄金柄杓よりこぼれ落ちる「米コメ(花)」（五色の色紙片）で浄めます。これは、貴船神社と並ぶ真鶴の産十神で、漁業や石材業と共に出産の守護神でもある貴船山神社（撰社）の大山祇命よりの祝福と思われれます。その隣にはこの地の祖霊を合祀した御霊社も鎮まり、祖が子を、子が祖を、何より愛して大切にしてきたあたたかい風土が感じられました。



貴船神社の船祭り

山の神に守られ、海の仕事に鍛えられた若者達の元気のよさ。今年新調され、二キロも増えたという見事な御輿を苦もなく担いでとことん楽しむ彼らの姿に、それは象徴されていました。

しかしその一方で、後半ふと耳にした地元の御老人達の会話から、この華やかな祭りから、実は最も大切なものが今失われつつあることを知らされたのです。かつて祭りの当日一週間前にも御先祖様への報告として踊りを奉納していた習慣が、昨今は皆暇がないからと省略されてしまっているということです。

若者の熱気にはとった一日の終わり、その昔行き交う人の言葉から神意を占問うていたという夕暮れ、古来「恩返しのみつり」といわれてきた貴船祭りの、本音を聞いた気がしました。

八月八日

津久井郡津久井町鳥屋の獅子舞

圧倒されるほどの緑、山と森に育まれて豊かな水を湛えた相模湖、そして雨の洗礼……。その奥に、かくれ里のような美しい鳥屋の集落がありました。行けども行けども深山幽谷で、いい加減心細くなっていた私の目に最初に入ってきたお祭りの提灯の明るさあたたかさ嬉しさは、今に忘れません。

津久井への道行きは、神奈川の水源地への旅であったのです。それ故、雨乞いの獅子舞がここに発生し、今に伝えられているのです。

今年の獅子舞は、高校生の少年が一ヶ月の練習を積んで初挑戦。中学生の少年達も後任として控えており、若い顔ぶれが古雅な舞を丁寧に踊ってくれました。いかつい顔の獅子達の、かんでふくめるような丹念



鳥屋の獅子舞

でやさしい動作に込められた、自然の恵みと豊穰・息災への祈り、そして先祖への想い……。ふと、二月に山北で見た獅子舞が重なり、思い出されました。

あの百万遍念仏の本当のふるさと世附は、今は三保ダムの水底です。ここ津久井から先に述べた愛川にまたがる宮ヶ瀬ダムの下にも、やはりかつて宮ヶ瀬の村がありました。私達の水源地、神奈川県西部の暮らして芸能は、いずれも水と緑、そしてダムと無縁ではられないのです。

八月十六日

藤沢市遠藤の遠藤ささら踊り

勇んで訪れた宝泉寺。しかしそこにいたのは赤トンボだけ。やがて現

れた地元の方に尋ねたところ、こ
四、五年は、同じように後継者の不
足や現役の高齢化のすすむ他地域の
保存会と一括して市の体育館等で行
うようになっていたとのこと（今年
のは七月三十日南足柄市で行われた
大会がそれです）。先祖の霊を慰め
るお盆の行事としての姿を失ってし
まったのは自他共に寂しいことであ
り、存在自体覚束ない今日の郷土芸
能としては是非もなく、むしろ恵ま
れているでしょう。

確かに真夏の炎天下での演技は、

年配の方には厳しいもの。この宝泉
寺を遊び場とも学びの庭ともしてい
る子供達が、それこそあの夏の高校
球児なみにたくましく成長し、いつ
か遠藤ささら踊りを、その形も心も
よみがえらせてくれる日を、今は信
じて待つことに致しましょう。

やがて、閻魔様の御縁日（藪入り）

とて三々五々集まって来られたお年
寄り達も中へおさまり、またどこへ
行ったかあれ程多く群れ飛んでいた
赤トンボもいなくなり、再び空虚と
なった境内に、来たるべき未来を託
しつつ、私は宝泉寺をあとにしまし
た。この日のトンボ達は、私には、

私と同じく今日のささら踊りを楽し
みに帰ってきたこの地の先祖の魂の
ように見えていたのです。

最後になりましたが、暑い中、貴

重なお話や御意見をお聞かせくださ
いました各地元の方々に心より感謝
申し上げます。有難うございました。

了

平成十年九月二十四日



一般寄稿

故郷の祭り囃子

川村囃子岸保存会会員 木村峰明

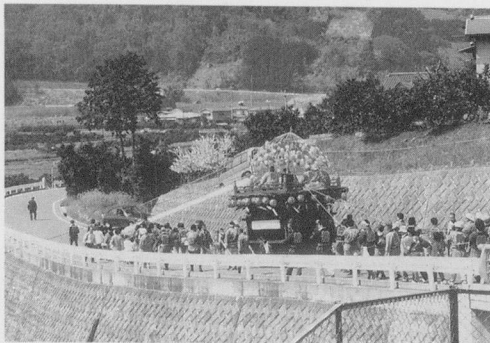
春風にのって子どもたちが囃子の
練習をする笛や太鼓の音が聞こえて
くると、私たちの故郷（神奈川県足
柄上郡山北町岸地区）の八幡神社の
例大祭が近づいてきたのを感じて落
ち着かない気持ちになります。

岸地区の氏神の八幡神社の起源は
古く、室町時代にはすでに存在して
おり、河村一族が河村城に立てこも
った時の文献中に八幡宮跡と記載さ
れています。河村城が廃城になった
後、幾度かの変遷を経て現在地に奉
安された歴史を持っています。

つい最近まで毎年四月三日に行わ
れてきた例大祭も、勤め人が多くな
った関係で、今では四月の第一日曜日
に行われています。

三台の山車は、八幡神社から神輿
の後を囃子保存会の会員と子どもた
ちに引かれて地区を運行します。

山車は、三台とも相前後して江戸
時代末期に建造されたもので、もと
もとは、越地地区、宿・斑目地区、



山車の運行

山車は、足柄平野を一望する岸地区の道を、宿地区、南原地区、三菱斑目地区、湯坂地区、日向地区、原耕地地区と丸一日かけて総延長八・五kmを運行します。子どもたちは、山車の中で交代しながら、丸一日太鼓をたたくのですから、それに耐えられる体力と気力を身に付けるための練習は厳しく、お祭りの一か月前から、毎晩七時から九時までの二時間、途中十分の休みをはさみ、休まず練習します。

もちろん、保存会の指導員もその間の子どものための指導にあたります。太鼓の練習に参加する子どもは毎年回覧板で募集するのですが、一年生から六年生まで、例年五十人ほどの子どもたちが練習に参加します。最初は、年長者が初心者に付きっきりで指導しますが、一年生などは途中眠くて目を明けていられなくなり、居眠りしながらたたいているのを年長者が励ましながらかえるといった光景も日常茶飯事です。

祭り囃子には、子どもたちを引きつける魅力があるのでしようか、練習は厳しくても、毎晩練習に通ってくる子どもたちです。



子どもたちの練習風景

こうした子どもたちの手によって故郷の祭囃子が、次の時代に引き継がれていくのだと思うと指導にも思わぬ力が入ります。

当地区の祭り囃子は、「囃子」「昇殿」「神田丸」「鎌倉」「四丁目」の五曲からなり、江戸時代中期に江戸から江戸囃子として、小田原の多古地区（旧足柄村）の白山神社の祭り囃子として取り入れられ、江戸時代の終わり頃、南足柄市から岸地区に伝わってきたものと言われている。また、多古地区の祭り囃子を聞く機会が有りましたが、太鼓のり

ズムなど岸地区の祭囃子と共通部分が多いものの、岸地区のものに比べてずいぶんゆっくりと優雅なもので同じルーツを持つ祭り囃子とは思えないものでした。

今でこそ道路は舗装されて広く整備されていますが、当時の岸地区は砂利道で山道も多く、悪路を苦勞して山車を引く引き手を励ますうちに、祭囃子もどんどん早く激しいものになっていったのでしょうか。その土地の気候風土や人々の氣質がその地域独自の文化をつくりあげていくということがよくわかるような気がします。

現在、山車運行については、囃子保存会が中心になって運営していますが、これについてもこれまで多くの変遷がありました。

近年においては、昭和三十六年の山車の運行を最後におよそ十年間、江戸時代より長く続けられてきた山車の運行を中止し、八幡神社の祭典の日に境内にその姿を見せるだけになった時期がありました。

やがて、故郷の祭り囃子も山車の運行も、人々の脳裏から忘れられようとした昭和四十七年の秋の感謝祭

に、故郷の文化遺産でもある祭り囃子を跡絶えさせたくないという囃子連の有志が発案し、昭和四十八年一月、「岸囃子保存会」が発足しました。会員も五十名を越える組織とな



納涼夏まつりの演奏風景

り、同年、十代の子ども十六名(女子二名)を対象に囃子太鼓の指導に踏み切りました。昭和三十六年を最後に十年間も跡絶えていたので練習は大変でした。その時、保存会々員でもあり教員であった前山北町教育長の石田公夫氏が、太鼓のリズムを楽譜に移して練習したという当時の新聞記事も、発足当時の会員の苦勞を忍ばせるものです。

昭和四十九年、せめて山車一台でも運行したいという会員の思いが、岸連合区をはじめ八幡神社総代にも通じ、ついに山車運行が復活することとなりました。たった一台だけでしたが、その年の四月の八幡神社の例大祭に、十年がかりの山車が運行されました。

その時の岸地区の人々の喜びはとて大きなもので、お年寄りの中には涙を流して喜ばれた方もいたという事です。

それだけ八幡神社の例大祭にとまなう山車の運行は地域の人々にとって長い地域の歴史に刻まれたかけがえない思いを持つものだということがわかります。

今では、三台の山車が祭り囃子も

にぎやかに運行し、沿道を山車を待つ人々でにぎわう八幡神社のお祭りも、これまでに幾多の変遷があり、

歴史に翻弄されながらも、先人の願いや努力によって今日に引き継がれていることを私たちは、忘れることなく新しい世代に受け継いでいこうと思えます。「岸囃子保存会」ではその後も春の例大祭だけでなく、河村跡で行なわれる河村祭りに、山北地区の囃子保存会と交代で囃子を披露したり、岸地区の夏まつりに囃子を披露したり、小田原北病院の夏まつりに囃子を出前するなどの活動の範囲を広げてきています。

『故郷の祭り囃子』を今に引き継ぎ、未来に伝えていく、そのための活動を、私たちは今後も積極的に推進していきたいと考えています。



新会員紹介①

鎌倉神楽保存会

鎌倉神楽保存会会長 吉田茂穂

鎌倉神楽は、湯花神楽、湯立神楽ともいわれ、庭上に山飾りを設け、大釜に湯をたぎらせ、これを中心に齋行される神楽で、釜の中から沸騰

した湯花が上がるので、湯花・湯立と呼ばれる所以です。現在、鎌倉及びその周辺の横浜・藤沢・葉山・横須賀などで行なわれていますが、最近は一 Generally 鎌倉神楽といわれています。

古くは御神楽、小御神楽、太々御神楽などと称されていましたが、歴史の変遷を経て、今日の鎌倉神楽へと推移したものであり、鎌倉時代より鶴岡八幡宮の職掌とされた「神楽男」と「八乙女」と呼ばれた巫女が奉仕して、今日にその命脈が伝えられています。

安永六(一七七七)年の「鶴岡八幡宮太々御神楽次第」によると「神楽数廿六座二御座候 以上」とありますが、現在は、湯立を中心

・打囃(うちはやし)

これより神楽を奏することを神々

に祈り、神楽笛・締太鼓・大胴の楽器を手にし、楽曲を一同で調べ揃えます。

・初能(はのう)

舞人一人が神前に進み、右手に鈴を持ち、左手には白米をのせた扇を持ち、これを四方に散供して稲霊の力によって邪気を払い浄める舞です。

・御祓(はらい)

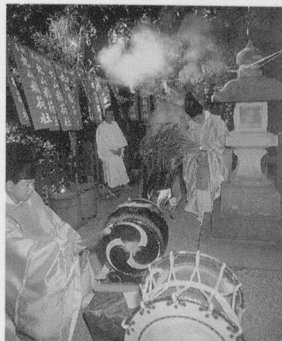
神楽の座と神々の降臨を仰ぐ山飾り、釜湯・参列者を祓い清めます。

・御幣招(ごへいまねき)

祓い清められた齋庭に神々の来臨を仰ぎ奉る神招きの舞です。

・湯上(ゆあげ)

火の神と水の神より生まれ出た尊



湯座(ゆぐら)

い「お湯」を、まず最初に神々に献ずる舞です。

・中入（なかいり）

神楽の前段が終り、後段の「湯立神事」にそなえ、心を整え後の神楽の準備をします。

・按湯（かきゆ）

幣串を煮えたぎる湯に入れて湯をかき、引き上げると回っている湯から湯玉が飛び、この湯花の上り方で年の豊凶を占います。

・大散供（だいさんぐ）

二人の舞手が、常に対角線上に立って散供するもので、舞方は初能と同じで邪気を払う事も勿論ですが、鳥や生き物にも施しをする意味もあり



御幣招（ごへいまねき）

ます。

・湯座（ゆぐら）

笛舞ともいわれ、笛に湯をひたした湯笹でお祓いをします。この湯を掛けられると、その年は無病息災であると信じられています。

・弓払（いはらい）

弓矢で邪気を射払い、天下泰平、氏子安穩を祈念する舞です。

・剣舞・毛止幾（けいまん・もどぎ）

天狗の面をつけ、剣を取る剣舞とそれを茶化す山の神の面をつけた毛止幾が織り成す座で、毛止幾の所作で笑いを招き、座の雰囲気や和め、人々が心の平常をもどし、日常生活に励む力をいただいで神楽全段を終ります。

以上の各座及びみかぐら（八乙女舞）が伝承されています。

鎌倉神楽の行なわれる時期は、古

くは一定していませんでしたが、古

記録では鶴岡八幡宮での重要な祭儀

には随時行なわれていました。現在

は、鶴岡八幡宮末社丸山稲荷社の火

焚祭の他に、鎌倉市内及び周辺神社

の例祭に奉奏され、八乙女舞は、鶴

岡八幡宮の元旦に行なわれる「神楽

始式」、九月十五日の「例大祭神幸

祭」に於いて奉奏されます。

神楽は本来重要な祭儀であると共に、そこに脈々と流れる民間信仰こ

そが、神楽の本質です。鎌倉神楽で

の「かき湯」は、立ち昇る湯花で年

穀の豊凶を占い、その湯を掛けられ

ると風邪をひかないとか、山飾りの

御幣や紙垂はお守りとして各家々の

神棚に祀るなどの風習が、今なを続

いています。

神話を演ずる劇的要素の強い他地

方の里神楽などと比較すると、古く

から口伝によって伝承されて来た鎌

倉神楽の素朴な舞と、単調な楽の音

は、神楽の古態を多く残すものであ

新会員紹介②

小田原民俗芸能保存協会

小田原民俗芸能保存協会会長 川久保 和 男

私共、小田原民俗芸能保存協会は、

小田原地方の民俗芸能を保存・継承、

普及並びに後継者の育成に努めるこ

とを大きな目標に掲げて、昭和四八

年に創立したもので、本年、創立二

五周年を迎えることが出来ました。

当初、民俗芸能を保存する四団体が

が結集して設立した本協会ですが、

り、今後も正しく保存・伝承されてゆくべきものであると思います。



大散供（だいさんぐ）

今日までに、さらに四団体の加盟を

受けて、現在は、八団体の保存会か

ら成っており、全構成員は約四八〇

名を数えております。

本協会の加盟団体と受け継いでい

る芸能を紹介いたします。

相模人形芝居下中座は、県西地域

に伝わる相模人形芝居五座の内の一

つとして、国の指定を受けております。大阪の文楽と同じ「三人遣い」で、「鉄砲差」という独特の人形の持ち方を特徴としています。

小田原獅子多古保存会は、小田原の祭囃子として伝わる小田原囃子を保存する団体として、県の指定を受けております。どこか哀愁を帯びた独特の調べのある祭囃子です。

根府川寺山神社鹿島踊保存会の鹿島踊りは、寺山神社に奉納する芸能として地域に古くから伝わったもので、県の指定を受けております。

曾我別所寿獅子舞保存会の寿獅子舞は、本年八月一日付で小田原市の文化財に指定されました。獅子獅子舞の系統で西湘地区には珍しい芸能です。

小田原市山王原大漁木遺唄保存会の大漁木遺唄は、古くから相模湾一帯の漁民に歌われてきた仕事唄と儀式唄で、全国的にも珍しいものです。

小田原ちようちん踊は、童謡「お猿のかごや」で知られる小田原提灯を手に持って踊ります。現会長の創案で創られた比較的新しい芸能ですが、小田原のお祭には欠かせないものになっ

ています。

箱根馬子唄長持唄保存会の箱根馬子唄長持唄は、江戸時代に箱根を越す馬子や長持達が歌ったものです。重い荷を背負う人足が、気合を込めて歌ったものです。

栢山田植歌保存会の栢山田植歌は、いつのころからか田植えをする女性達に歌い継がれてきたものです。田植えの際だけでなく、婚礼等の祝い唄としても歌われました。

以上の八団体によって、私共、小田原民俗芸能保存協会は構成されております。

ご承知のとおり、民俗芸能を保存する団体にとって一番の望みは、地域の人々の理解と支援を受け、多くの後継者を得ることです。私共も後継者の育成には日々努力しているところであり、平成四年度から平成九年度にかけては、後継者を育成する立場となる指導者を育成する事業を行い、本年度から後継者を育成する事業を開始いたしました。

又、本年は、本協会の創立三五周年であること、加盟団体の寿獅子舞が小田原市指定文化財となったことを記念して、小田原民俗芸能大会を

開催いたしました。(平成一〇年二月六日)当日は、神奈川県民俗芸能保存協会後藤会長様はじめ、多くの協会の方々のご来場を賜わりまして、大変盛況に開催することが出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

この度、県民俗芸能保存協会に入らせて頂きましたが、あらためて民俗芸能の保存に対する責任を痛感しているところであります。

今後とも、皆様のご支援、ご指導を賜わりながら活動してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新会員紹介③

相模原市民俗芸能保存協会

相模原市民俗芸能保存協会会長代理 中里 泰史

本協会は、昭和54年4月に設立しました。固める時の唄、新田名音頭は水郷と呼ばれる地域で生まれた音頭です。

構成団体は次のとおりです。

神代神楽保存会

大島諏訪明神獅子舞保存会

下九沢御嶽神社獅子舞保存会

田名八幡宮獅子舞保存会

ぼうち唄保存会

大沼土窯搦き唄保存会

水郷田名新田名音頭保存会

その概要を説明しますと、神代神楽は日本神話を演じる仮面劇、大島・下九沢・田名の獅子舞は、各々の地域に伝わる一人立三匹獅子舞、ぼうち唄(棒打ち唄)は麦打ち作業の時の唄、土窯搦き唄は炭焼き窯を搦き

さて、民俗芸能の保存には多くの方々の理解と協力が必要です。そこで協会では、より多くの人に民俗芸能に関心をもっていただくため、様々な活動を行っております。

例えば、独自の企画として話題をよぶ民俗芸能大会があります。

その例を紹介しますと、大島・下九沢の獅子舞の源流といわれる奥多摩の獅子舞を招いた『獅子舞さみっ』と、『当事者以外は知らない』と、『念仏和讃を公開した』『祈りの世界』、台地や山間部の仕事唄を比較した『土と汗と仕事唄』、村芝居や義太夫

節など往時の大衆娯楽を復活させた『あ懐かしの農村歌舞伎』、盆踊りの発生から今日の姿までを追った『盆踊りの系譜』などです。時には神社の境内を借りて、その地域の一年間の民俗芸能を次々に披露したこともあります。また、相模原市と友好関係にある秋田や岩手、長野、鹿児島などの町から民俗芸能の保存会を招き、大規模な大会を行ったことでもあります。

閉気作りのためプロのスタッフによる効果的な演出も加えています。しかし、民俗芸能はいかに再現したとしても、異なった日・場所(舞台)で行えば、単なる演技に過ぎないともいえます。そこで舞台では、その民俗芸能の特徴的な場面を紹介し、本来の姿は本番の祭礼の時などにご覧ください。と紹介することも忘れてはいません。

このように、相模原市の民俗芸能大会では協会への加盟・悲加盟にこだわることなく、市外・県外にまで協力を求め、多くの人々に様々な民俗芸能を紹介しています。また、霧

また、最近では公開練習を行っています。例えば、仕事唄などは催物でもない限り、公開する機会がありません。そこで市の古民家園を会場に、会員の練習風景を来園者に公開してみました。これは茅葺き民家の庭先という景観も加わってか、舞台公演とはまた違ったのどかな雰囲気

ほかに、協会の年間活動をまとめた機関誌『さがみはらの民俗芸能』を発行し、会員や関係各機関などに配布しています。

本協会では、このような活動を20年つづけてまいりました。しかし、この間にもそれぞれの民俗芸能は日々変化をしています。民俗芸能はその時代その世代ごとに変化をし、伝承

されてきたものです。協会では、後継者の育成とともに、この変化の様子を丹念に記録することを新しい課題として捉え、活動を発展させなくてはならないと考えております。

ニュース・伝言板

協会事業報告

○平成10年度理事会

及び総会の開催

平成10年6月12日(金) 県立歴史博物館において、本年度理事会及び総会が開催され、9年度事業報告・決算報告が承認されました。併せて10年度事業計画案予算案が可決されました。

総会終了後、県の無形民俗文化財に指定されている「菊名の鮎屋踊り」を三浦市下浦町菊名のあめや踊保存会の方々に上演していただきました。当協会の後藤淑会長の解説、「笠松峠」のビデオ上映の後、「白松粉屋」「新川」の2演目が上演され、鑑賞しました。

○平成10年度民俗芸能

見学会概要報告

平成10年度の見学会は4回です。すでに第1回、第2回を実施しています。第1回見学会

《民俗芸能 北から南から

第48回全国民俗芸能大会

期日 平成10年11月21日(土)

場所 日本青年館(神宮外苑)

恒例の全国民俗芸能大会を見学。出演芸能は、「箱根仙石原の湯立獅子舞」「階上町のナニヤドヤラ」「吉左右踊・太鼓踊」「森町の十二段舞楽」。今年は最初に当協会会員の仙石原神楽保存会が出演し、「湯立獅子舞」を披露しました。昼から夕方まで5芸能をたっぷり鑑賞しました。

参加者31名

第2回見学会《小田原民俗芸能大会》

期日 平成10年12月6日(日)

場所 小田原市民会館ホール

創立25周年と寿獅子舞が小田原市の無形民俗文化財に指定されたのを記念した大会です。出演芸能は「寿獅子舞」「栢山田植歌」「大漁木遣歌」「小田原ちようちん踊り」「小田原囃子」「箱根馬子唄長持唄」「寺山神社の鹿島踊り」「相模人形芝居『伽藍先代萩』政岡忠義の段(下中座)」。午前中に小田原民俗芸能保存協会の川久保会長の解説、当協会の石井副会長の講演を聴いて大会を見学。笑い声のわく和やかな雰囲気の大会でした。

参加者14名

*事業予定

第3回見学会(予定)

《第1回かながわ民俗芸能のつどい・

第23回秦野市民俗芸能大会》

・乙女文楽「三番叟」(湘南座)

・ささら踊り(秦野ささら踊り保存会)



平成10年10月11日 相模原市民俗芸能大会
「盆踊りの系譜」フィナーレ

・五所宮囃子（五所宮囃子宮本地区保存会）
・仕事唄「麦打ち唄・地突き唄・唐臼唄」
（秦野市内有志）

・湯立獅子舞（宮城野獅子舞保存会）
・瓜生野盆踊り（瓜生野盆踊り保存会）
・囃子・曲持（新城郷土芸能囃子曲保存会）

期日 平成11年1月31日（日）

13時～16時を予定（12時半開場）

場所 秦野市文化会館小ホール

概要 毎年行われている「秦野市民俗芸能大会」と、当協会の「かながわ民俗芸能のつどい」の共催の大会です。秦野市内に伝承されている無形民俗文化財に、当協会の団体会員が演ずる4演目に加わり、平成5年以来の6年ぶりに県レベルの民俗芸能大会が実施されます。

第4回見学会（予定）

《相模人形芝居大会・相模人形芝居教室》

期日 2月7日（日） 正午～16時

場所 小田原市萩窪 小田原市中央公民館小ホール

概要 県内の相模人形芝居5座が一堂に会して行われる年一回の公演。今回の演目は次のとおり。

・前鳥座

『絵本太功記』十段目尼ヶ崎の段

・長谷座

『増補生写朝顔日記』宿屋より大井川の段

・林座

『菅原伝授手習鑑』寺子屋の段

・足柄座

『伽羅先代萩』政岡忠義の段
・下中座

『一谷嫩軍記』熊谷陣屋の段

午前中に相模人形芝居教室（次頁参照）を開催します。

○民俗芸能教室

《相模人形芝居教室》（予定）

相模人形芝居大会の公演に先立って午前中に会員以外の一般の方にも開放した相模人形芝居教室を神奈川県民俗芸能保存協会の主催で開催します。相模人形芝居の解説、人形の操作体験などを林座の協力で実施します。

○民俗芸能関係情報の提供

団体会員及び市町村等から提供された民俗芸能関係の情報を取りまとめ3ヶ月に一度会員の方々に提供しています。

第1回 平成10年7月～9月（6月発行）

第2回 平成10年10月～12月（9月発行）

第3回 平成11年1月～3月（12月発行）

第4回 平成11年4月～6月（3月予定）

○共催後援事業

第22回相模ささら踊り大会

（共催）

日時 平成10年7月30日（木）

13時～16時

場所 南足柄市体育センター

概要 初めに厚木長谷のささら踊りが披露され、続いて海老名・秦野・綾瀬・葛原・愛甲・遠藤・足柄の順に踊りを発表しました。最後は合同で「神奈川おどり」、

地元ゆかりの「あしがら金太郎首頭」を踊り、交流を深めました。

創立25周年・寿獅子舞文化財指定記念 小田原民俗芸能大会

（後援）

日時 平成10年12月6日（日）

12時半～16時

場所 小田原市民会館大ホール

概要 （第2回見学会参照）

第1回かながわ民俗芸能のつどい・第23回秦野市民俗芸能大会

期日 平成11年1月31日（日）

13時～16時を予定（12時半開場）

場所 秦野市文化会館小ホール

概要（協会事業報告第4回見学会を参照）

問合せ 秦野市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化財班

TEL 〇四六三（八二）五一一一

（内）二七五二～四

*事業予定

相模粹鼓會とお囃子の集い（後援）

第1回かながわ民俗芸能のつどい・第23回秦野市民俗芸能大会

（共催）

第26回相模人形芝居大会（後援）

【報告】

○海老名ささら踊り保存会

海老名市の無形民俗文化財に
指定
32年前、海老名にささら踊りがあったことを知りました。多くの古老たちに話をうかがい、唄が主流だと思いましたが、唄の文句が江戸時代の生活そのままです。おもしろさに取りつかれました。

昭和54年に相模ささら踊連合会に加入して平成10年8月28日、市の無形文化財の指定を受けました。会員一同海老名市に心から感謝し、永くささらを愛していきたいと思っています。
（会長 岡部真智子）

○相模人形芝居 足柄座
野外自主公演

日時 平成10年9月27日（日）

14時～16時半

場所 南足柄神社境内（神楽殿）

概要 足柄座初の野外自主公演に雨天中止の前触れにもかかわらず、早朝から足を運んでくださるお客様もあり、『三番叟』『傾城阿波之鳴門』『壺坂靈験記』に加え、何十年ぶりの披露となりました『伊達娘恋縛鹿子』お七火の見櫓の段を上演いたしました。雨のなか傘の下で二百名あまりの方々にご覧いただき、お七が半鐘を鳴らす場面など大きな掛け声とお捻りまで飛び交うという盛況ぶりに座員一同感動を新たに終りました。

会員活動紹介

【報告】
○海老名ささら踊り保存会

○入谷歌舞伎会・座間浄曲同好会・あつぎひがし座・箏曲相和会

平成10年度市民芸術祭に公演
日時 平成10年11月15日(日)
13時～16時

場所 座間市市民文化会館
(ハーモニーホール座間)

概要 地芝居・人形浄瑠璃・箏曲の三部構成の公演。人形浄瑠璃は、座間浄曲同好会の義太夫にあつぎひがし座の人形で、『寿式三番叟』『伽羅先代萩』政岡忠義之段。地芝居は、入谷歌舞伎会の出演で、『暇名手本忠臣蔵』七段目「力茶屋の場」を上演。友情出演に箏曲相和会を迎え、盛会のうちに終了しました。

【予定】
○曾我別所寿獅子舞

期日 2月7日(日)、11日(木・祝)、14日(日)、21日(日)、28日(日)
正午～14時ごろ

場所 曾我梅林 梅まつり 3会場
(別所梅林、原梅林、中原梅林)

概要 江戸時代より郷社宗我神社に氏子の無病息災と豊年を祈願して奉納されてきました。「はやし獅子舞」の系統で、一人立ち獅子舞です。獅子舞の馬鹿囃子に合せて二人羽織が競演するパントマイムの神楽に近い獅子舞です。小田原市指定無形民俗文化財。
問合せ 芸能についてー小田原市教育委員会文化財保護課
TEL〇四六五(三三) 一七一一四

梅まつりについてー小田原市観光協会
TEL〇四六五(二二) 五〇〇二
○相模人形芝居大会・相模人形芝居教室

期日 2月7日(日) 正午～16時
場所 小田原市荻窪 小田原市中央公民館小ホール

概要 (協会事業報告第4回見学会及び民俗芸能教室参照)
問合せ 相模人形芝居大会ー小田原市教育委員会文化財保護課
TEL〇四六五(三三) 一七一一四
相模人形芝居教室ー神奈川県民俗芸能保存協会事務局(県教育庁文化財保護課)
TEL〇四五(二〇一) 一一一一一 (内) 七三三五

○川崎市民俗芸能発表会

期日 平成11年3月6日(土)
10時～16時の予定

場所 エポック中原
(川崎市中原区上小田中)

概要 川崎市域に受け継がれる民俗芸能の発表会(入場無料)。川崎市指定文化財の囃子・曲持(新城郷土芸能囃子曲持保存会)上演のほか、10団体以上の団体による公演です。現在演目を選定中です。
問合せ 川崎市教育委員会文化財課
TEL〇四四(二〇〇) 三三〇六

13時半～(13時開場)
場所 相模原市中央 相模原市民会館大ホール

概要 相模粋鼓會結成10周年を記念して友好団体を交えて「お囃子の集い」を開催します。出演団体は、相模粋鼓會(相模原市)、武州下恩田囃子保存会(横浜市)、中沢祭り囃子保存会(城山町)、みつめ囃子振興会(東京都町田市)等で、各地域に伝わる祭り囃子が演じられます。
問合せ 相模粋鼓會事務局
TEL〇四二(七五三) 一四八三 石森宅

○湯立獅子舞ー仙石原

期日 平成11年3月27日(土) 13時
場所 箱根町仙石原 諏訪神社境内
期日 平成11年5月5日(水・祝)
時間未定(例年は11時半ごろ)

概要 仙石原に伝わる獅子舞は、安永5(一七七七)年富士吉田村から伝えられ、獅子が湯立をする湯立獅子舞で、五穀豊穡、天下泰平を願って行われます。5月5日の金時神社での奉納は、公開も目的としています。国選択無形民俗文化財、県指定無形民俗文化財。
問合せ 仙石原神楽保存会事務局
TEL〇四六〇(四) 八一四八 勝保宅

○寺尾ばやし・綾瀬音頭

期日 平成11年4月4日(日)
時間未定(桜まつり)
場所 綾瀬市早川城山公園
概要 「寺尾ばやし」は、子之社(寺尾

中)の祭ばやしとして伝えられています。いわゆる下町ばやしで、岡崎、屋台、四丁目、鎌倉などの曲があります。楽器は、大胴1、ツケ4、鉦1、笛1。岡崎にはオカメ、ヒョットコなどによる「馬鹿面踊り」が入ります。
綾瀬音頭は、市民から歌詞を募集して昭和50年に作られました。盆踊りや運動会、その他さまざまな行事で踊られ、親しまれています。「綾瀬音頭保存会」として綾瀬市民俗芸能保存協会に加入しています。

○早川はやし連

期日 平成11年4月29日(木)
時間未定(綾瀬緑化フェア)
場所 綾瀬市早川 綾瀬市役所庁舎前広場概要
早川はやし連は、五社神社(綾瀬市早川)の祭ばやしとして伝えられてきました。いわゆる新ばやしで、岡崎・屋台・四丁目などの曲があり、楽器は、大胴1・ツケ4・鉦1、笛1となっています。綾瀬市民俗芸能保存協会に「早川はやし連保存会」として加入しています。
このほか、綾瀬音頭又は綾瀬ささら踊り保存会のいずれかが出演の予定です。
問合せ 綾瀬市教育委員会生涯学習課
TEL〇四六七(七七) 一一一一 (内) 二五四二

○北条五代祭り

小田原囃子

小田原ちようちん踊

期日 平成11年5月3日(月・祝)

12時半～15時半(予定)

場所 (セレモニー) 小田原城址公園三の丸小学校跡 (二の丸広場)

(パレード) 小田原駅前周辺

概要 小田原北条五代祭りでは、小田原城址公園三の丸小学校あと(二の丸広場)での12時半からのセレモニーに引き続き、市内パレードを13時20分から行います。

小田原囃子多古保存会、小田原ちようちん踊保存会も参加したパレードで、小田原駅周辺の目抜き通りを行進します。15時半終了の予定。

問合せ 小田原市観光協会

TEL 〇四六五(二二)五〇〇二

○国府祭

期日 平成11年5月5日(水・祝)

およそ9時～17時ごろ

場所 大磯町国府本郷

(神揃山、馬場公園)

概要 一之宮(寒川神社)、二之宮(川匂神社)、三之宮(比々多神社)、四之宮(前鳥神社)、平塚八幡宮神社の五社が寄り集まって、六所神社との間で特殊な祭祀が執り行われます。

神婚儀礼の性格をもつ古式祭事で、県下最大の広域性のある合祭です。特に座問答や鷲の舞は、古式ゆかしい姿を今に伝えています。県指定無形民俗文化財。

問合せ 大磯町教育委員会社会教育課

TEL 〇四六三(六一)四一〇〇

(内)三三三

六所神社社務所

TEL 〇四六三(七一)三三七七

○秦野ささら踊り

期日 平成11年5月16日(日) 時間未定

場所 秦野市立北小学校

期日 平成11年10月3日(日) 時間未定

場所 秦野市立北小学校

概要 秦野ささら踊りは、昭和51年ごろ再興し、昭和52年に秦野市の無形文化財に指定されました。踊りには「扇踊り」「ちようちよ踊り」「かえる踊り」の3種類があります。

5月16日は、地域の郷土芸能として多くの人に親しんでもらうために市民体育祭の中で踊ります。

10月3日は、毎年10月第一日曜日に開催されている北小学校の運動会で披露されるものです。秦野ささら踊り保存会の指導による練習の成果を5・6年生が発表します。

問合せ 秦野市教育委員会生涯学習課

TEL 〇四六三(八一)五一一一

(内)二七五四

○蛇も蚊もまつり

期日 平成11年6月6日(日)

早朝6時半ごろから夕刻まで

場所 横浜市鶴見区生麦 神明社

概要 横浜市無形民俗文化財の「蛇も蚊も」は約三〇〇年前に悪疫が流行したとき、萱で作った蛇に悪霊を封じ込めて海

に流したことに始まり、伝承されてきました。又雨乞いの行事ともいわれていました。昔は端午の節句の行事でしたが、現在は毎年6月の第1日曜、生麦神明社の境内で萱で長さ約20m、胴回り約1mの、蛇2体を午前中に作り、13時ごろから大人・子どもで、蛇も蚊も出たけい、日和の雨けい、出たけい出たけい」と唱えながら町内を練り歩きます。

問合せ 蛇も蚊も保存会

TEL 〇四五(五〇一)二八四七 牛頭宅

○虎踊

期日 平成11年6月12日(土) 20時

場所 横須賀市西浦賀町 為朝神社

概要 むいぐるみの虎に2人の虎遣いが入り舞います。筋書きは、歌舞伎の『国性爺合戦』の一部を取り入れた和藤内の虎退治を主に、唐子踊りが伴います。和藤内が叶明神の木札を振りかざして虎を退治し、町の無病息災を祈念します。横須賀市民俗芸能大会にも出演しています。県指定無形民俗文化財。

問合せ 横須賀市教育委員会社会教育課

TEL 〇四六八(二二)四〇〇〇

浦賀虎踊り保存会

TEL 〇四六八(四一)三七二九 相澤宅

TEL 〇四六八(四一)三七二九 相澤宅

浦賀虎踊り保存会

TEL 〇四六八(四一)三七二九 相澤宅

○第24回人形浄瑠璃公演

あつぎひがし座

期日 平成11年6月20日(日)

13時(予定)

場所 厚木市文化会館 小ホール
概要 県立厚木東高校人形浄瑠璃部の卒

業生で組織する人形浄瑠璃の団体あつぎひがし座が、年1回行っている自主公演です。演目は現在検討中です。(共催厚木市教育委員会)

問合せ 厚木市教育委員会生涯学習課

TEL 〇四六二(二五)二五一五

TEL 〇四六二(二二)四一五一 林田宅

TEL 〇四六二(二二)〇四六二 葉山宅

○座間市祭り囃子保存会

若音会

期日 平成11年9月4日(土) 5日(日)

両日とも15時～22時

場所 座間市栗原中央 栗原神社

概要 栗原地域には、昔から五組の祭囃子が保存会が存在しております。栗原神社例祭には境内に杖敷を組み立て、上で勇壮な太鼓演奏を行い、競演を繰り広げます。

問合せ 座間市祭り囃子保存会

若音会代表

TEL 〇四六二(五三)七三九五 中村宅

○太田和上の里獅子舞、祭囃子

期日 平成11年10月10日(日・祝)

14時～15時の間

場所 横須賀市太田和 三浦正八幡宮

概要 三浦正八幡宮の祭祀に奉納します。太神楽系の二人立獅子舞で、獅子戯の「いずかい」では、獅子が座り込んで耳をかいたり、幕をかんだりして蚤をとるしぐさをします。調子のいい囃子謡や囃子詞で獅子をからかって怒り立たせます。獅子が御幣を持って舞う悪魔払いの舞

お知らせ

「弊の舞」が一番のハイライトです。
問合せ 太田和上氏子青年
TEL 〇四六八(五七) 〇三七六 鈴木宅

○世附の百万遍念仏

期日 平成11年
2月13日(土) 13時〜16時、
14日(日) 9時〜11時半、
13時〜15時半、
21日(日) 17時〜18時
(悪魔払い、弊束流し等)

場所 山北町向原 能安寺

概要 三〇二も珠のある大きな数珠を大滑車にかけて、屈強な男たちが一人ずつ数珠をたぐって引き寄せては投げけるようにぐるぐるまわし、念仏祈願をします。全国的にも珍しく、六百年の伝統を持つといわれています。

念仏のあとに獅子舞が行われ、おかめ・ひよっとも登場します。県下唯一とされる鳥刺しも演じられます。

21日(日)には、浄め祓いの舞(悪魔払い)のち、弊束を大口橋から流します。県指定無形民俗文化財。

問合せ 山北町教育委員会生涯学習課
TEL 〇四六五(七五) 一一二二
(内) 五一〇

○高麗の山神輿

期日 平成11年4月17日(土)
19日(月) 18時ごろ 上宮渡御

9日(月) 13時ごろ 下宮還御
場所 大磯町高麗 高来神社、高麗山
概要 植木市でよく知られている高来神社の春祭りの中で行われる特殊な儀礼です。高来神社の神霊を山神輿に移し、高麗山の麓から山頂の上宮まで、急斜面を引き上げるとても勇壮なものです。

問合せ 大磯町教育委員会社会教育課
TEL 〇四六三(六一) 四一〇〇
(内) 三三三

○鷺の舞

期日 平成11年4月29日(木・祝)
17時ごろ(御輿・山車の到着後)

場所 中井町遠藤 五ノ所宮八幡神社近くの広場(お旅所「広場」は中村川沿い)

概要 鷺の舞は、五ノ所宮八幡神社例大祭の締めとして御輿へ献饌するときに舞われる、素朴で古典的な祈禱舞です。船型(半艘)の舞台の上で白装束の舞手が2人、鷺頭をつけ笛と太鼓にあわせて舞います。中井町指定重要無形文化財。

問合せ 中井町教育委員会生涯学習課
TEL 〇四六五(八一) 一一一一
(内) 三五六

○相模の大凧まつり

期日 平成11年5月4日(火・休)、
5日(水・祝) 10時〜16時

場所 相模川河川敷(新戸スポーツ広場、上磯部三段の滝下広場)、勝坂

概要 新磯地域で各地区(新戸・上磯・勝坂)ごとに行われる大凧揚げの行事。

凧は最大のもので8間(14・4m)四方重さは約1tある。図柄は世相を反映した題字が描かれるが、もともとは長男の成長を祝う個人的な行事だったという。国選択無形民俗文化財「関東の大凧揚げ俗」の一つ。

問合せ 相模原市役所
産業観光課ふるさと 観光係
TEL 〇四二七(五四) 一一一一
(内) 二七二六〇七

○座間の大凧祭り

期日 平成11年5月4日(火・休)、
5日(水・祝) 9時〜16時ごろ

場所 相模川河川敷(座架依橋の上流 一〇〇m)

概要 座間で行われる大凧揚げで、「相模の大凧まつり」と同じく江戸後期から一九〇年あまり続く伝統行事。会場は上記「相模の大凧まつり」の会場と隣接しています。

9時からわんぱく相撲などが始まり、10時から開会のセレモニー、11時頃から実際に凧をあげ始めますが、風次第なので鷹揚の御見物をお願いします。国選択無形民俗文化財「関東の大凧揚げ習俗」の一つ。

問合せ 座間市役所 産業課観光係
TEL 〇四六二(五五) 一一一一
(内) 二二二五

○瓜生野百八松明

期日 平成11年8月14日(土)
19時ごろ

場所 秦野市南矢名の権現山山頂〜麓の龍法寺門前
概要 瓜生野地域の人々約50人が、2〜3mの麦わら松明を肩に、山頂から掛け声もるとも下山するという勇壮な行事です。五穀豊穡、悪疫退散を祈願して数百年前から続けられています。

問合せ 秦野市教育委員会生涯学習課
TEL 〇四六三(八二) 五一一一
(内) 二七五四

○瓜生野盆踊り

期日 平成11年8月14日(土)
19時ごろ

場所 秦野市南矢名一、七五一付近の広場

概要 瓜生野盆踊りは、「伊勢首頭」の系統にあり、それが秦野に広がります。形で伝承されてきたものと思われ、瓜生野の人々、老若男女が広場に集い、浴衣に赤ダスキがけ、手にうちわ、手拭を持ち、踊りの輪を広げます。

問合せ 秦野市教育委員会生涯学習課
TEL 〇四六三(八二) 五一一一
(内) 二七五四

○下大槻百八炬火

期日 平成11年8月14日(土) 19時〜

場所 秦野市下大槻の南平橋付近、田んぼの畦道

概要 古くから水田耕作が盛んであったこの地では、虫害を免れるための「百八炬火」という「虫追い」の行事が行われています。畦道両側に並べた百八のわら

の山に次々と火がつけられ、神輿や太鼓
囃子の行列が練り歩きます。

問合せ 秦野市教育委員会生涯学習課

〒〇四六三(八二二)五一一一

(内)二七五四

○第41回ブロック民俗芸能大会

毎年行われているブロック別の民俗芸能大会の日程が次のとおり決まりました。国際民俗芸能フェスティバルについては、調整中です。

・北海道・東北ブロック(青森県)

期日 10月16日(土)・17日(日)

会場 未定

問合せ 青森県教育委員会文化課

〒〇一七七(二二二)一一一一

(内)五二四六

・関東ブロック(山梨県)

期日 10月23日(土)・24日(日)

会場 甲府市 県民文化ホール

問合せ 山梨県教育委員会学術文化財課

〒〇五五二(三七七)一一一一

(内)八五一五

・近畿・東海・北陸ブロック(奈良県)

期日 10月3日(日) 午後を予定

会場 大和高田市 文化会館

問合せ 奈良県教育委員会文化財保存課

〒〇七四二(二二二)一一〇一

(内)五三三五

・中国・四国ブロック(愛媛県)

期日 9月4日(土) 午後を予定

会場 越智郡伯方町 町民会館

問合せ 愛媛県教育委員会管理部文化財

保護課

〒〇八九(九四一)二二一一

(内)四三六七

・九州・沖縄ブロック(福岡県)

期日 10月31日(日) 午後を予定

会場 筑後市 サザンクス筑後大ホール

問合せ 福岡県教育委員会指導第二部文

化課

〒〇九二(六五一)一一一一

(内)五〇九三

☆新規会員募集

民俗芸能を実際に行っている人、また民俗芸能に興味をお持ちの人等協会では、多くの方々の入会をお待ちしております。会員の皆様も勧誘に御協力ください。協会では事業として、各種芸能見学会、会報の発行等を予定しております。

入会御希望の方は、事務局まで御連絡ください。奥付を参照ください。なお、会費は個人会員は年額一口千五百円、団体会員は三千円となっております。

☆会費の納入について

当協会の事業の円滑な運営のためには、会員の皆様の会費納入についての御協力が必要となります。平成10年度分未納の方は至急納入くださいますようお願いいたします。

☆原稿を募集しています!

編集部では会員の方々から投稿をお待ちしています。日ごろの活動状況、行事の写真、また情報交換の場として御活用

くださるなど、お気軽にお寄せください。

☆御意見・御感想をお寄せください!

編集部では読者からの御意見・御感想をお待ちしています。機関紙に限らず、協会や協会の事業のことについてもお気軽にお寄せいただければ幸いです。あて先は、事務局まで。奥付を参照ください。

編集後記

平成10年度の機関誌をお送りします。いろいろと御協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。ありがとうございます。

平成11年度は、協会創立30周年。記念号なども検討されていますので、これからもみなさんの御協力をお願いいたします。

(事務局樋口)

「かながわの民俗芸能」第63号

平成11年1月31日発行

編集 横浜市中区日本大通33

神奈川県教育庁生涯学習部

文化財保護課内

神奈川県民俗芸能保存協会

事務局 電話〇四五(二〇一)一一二一代

内線七三三五

発行 神奈川県民俗芸能保存協会

印刷 ツルミ印刷株式会社

電話〇四五(四五三)三三二六代